

第 2 回 沙 流 川 流 域 委 員 会 議 事 要 旨

日 時：平成 17 年 12 月 27 日（火） 14：00～15：40

場 所：ふれあいセンターびらとり

出席者：長南委員を除く 12 名

議 事 要 旨

1. 第 1 回審議内容の確認

第 1 回沙流川流域委員会議事要旨（案）を承認

2. 沙流川水系河川整備計画の変更について

- ・ 事務局より、「沙流川水系河川整備計画の変更概要」及び「沙流川水系河川整備計画の現行と【変更】（原案）対比表」について説明。
- ・ 委員の主な意見は以下のとおり。

1) 主な意見

（治水対策）

- ・ 平取町の問題は、平成 15 年台風 10 号で貫気別と額平の農地がもっとも被害を受けたことであり、被害が起こらないように整備して欲しい。このため、今回の整備計画変更は早期実現を希望する。
- ・ この流域委員会は、平成 15 年台風 10 号が再来しても安全なように流量を 6100 m³/s に変更することが目的であり、最も重要なことである。その後、治水の実施にあたって、如何に自然に近い形を維持するかを議論すべきである。

（ダム）

- ・ ダムに堆積した土砂は、沙流川を汚濁させないように排除するべき。例えば、その土砂を用いてシシャモの産卵床を整備するなどの対策も必要である。治水対策を効果的に実施するため、地域住民のため、弾力的にダムの運用を行って欲しい。

（河道掘削）

- ・ 河道掘削で高水敷を拡大することにより、融雪出水期の水が引くときにサケ・マスの稚魚がここに取り残される可能性がある。自然に形成された河道では、澇筋ができたりするが、人工的に掘削した場合には、逃げ道が形成されないことも考えられるため、今後、この点にも留意するとともに、モニタリングを進めて欲しい。
- ・ 前回事務局より河道掘削にあたっては、アダプティブマネジメントにより取り組むとの説明があったが、工事期だけでなく、モニタリングを行い、

将来にわたってサケ、サクラマス、シシャモ等の住みよい河川にしていく必要があるとの指摘と理解。

- ・ シシャモへの配慮を考えると、河道を掘削することによって、洪水により蛇行すると思うが、すぐ護岸を設けるのではなく、堤防に接近した箇所の護岸を強化するなど、自然な川になるように努力してもらいたい。また、平取ダムには魚道を付けることと渇水期にはいくらかでも放流するようお願いしたい。
- ・ 河道掘削について、手戻りを許容するアダプティブマネジメントについてモニタリングの組織をつくるなど、実効性のあるものにできるように関係の方々にお願いしたい。
- ・ まっすぐ流れるよりは、蛇行したり、魚の隠れる場所などがあつたほうが良いのではないか。今までは、直線河道の計画が主体であったが、それは魚の生態系が変わる要因ともなる。平成 15 年台風 10 号以降、生物が回復してきた。できるだけ、あまり深く掘り下げるのではなく、自然の形で淘汰できれば良いのではないか。
- ・ 自然河道の複列砂州は洪水の時川がどう動くか予測が難しい。堤防を守るためには、防御ラインを確保することが前提であり、自由にとということにはならない。
- ・ 魚属資源の生態上、今の沙流川がベストか？河道形状を変更すると、生態系にとってもっとよくなる可能性があるのではないか。
基本設計と実施設計のようなものがあるなら、基本設計の段階で専門家のご意見を織り込むなど、しっかり担保を持ち合わせながらやっていくのが良い。

(アイヌ文化)

- ・ 大切なのは、人が住んでいるということ。安全の優先が、前提。それを踏まえ、河川は固有の顔を持っている。安全のみを追求すると全て同じ河川になる。沙流川の特性を活かすべきである。そのひとつとしてアイヌ文化の伝承を考えるべき。
文化は自然を残すだけでなく、自然から文化が生まれることもある。そのようなことは、アイヌ文化の中にも存在するので、こういう文化を組み込んだ川づくりというのが考えられても良い。
アイヌ文化の伝承に必要な自然環境の保全について、平取ダム建設にあたって取りまとめているアイヌ文化保全対策調査検討委員会の報告書を作成中で、こういうような考え方でやってもらうのがいいのではないかという提案になると思う。

(流域の視点)

- ・ 上流側では、山腹が崩れたままのところがある。全体的には相当量の流木

予備軍が存在する。徐々に撤去は行っているのでしょうけれども、山肌もこのまま手付かずになる懸念がある。山のことも土現とのことも連携して話を進めるといった話がありましたが、流木が出ないように除去などそういう方向に話を進めて欲しい。

- ・ 国、市町村、個人など、山の所有者が横断的に連携して山の整備を行っていく必要がある。
- ・ 洪水を抑えていける環境を作っていく中で森林の役割は大きいですが、崩壊地がまだ手つかずな状態で存在する。計画的に森林・治山・治水について整備をしていただきたい。そうすることで日本一の清流沙流川を有効に利用していけると期待している。
- ・ 治山事業は予算が少なく、現時点では大きな雨が降れば流木が出ることは避けられないのではないかと思います。流木を捕捉するようなスリットダムのようなものを設置するなど、関係機関等が集まる協議会で検討していただければと思う。
- ・ 流域の地質は浅い表土の下に樽前や有珠の火山灰があり、木が直立したまま斜面がずれることが多々ある。災害履歴が本州と比べ少ないことから、豪雨で大きな被害が発生する。これを管理する事は困難だと思うが、どこかで手だてをしなければならない。

(河川環境)

- ・ 色々な河川でもサケの産卵場所を保全しながら河川を整備していると聞いている。沙流川における河川整備にあたっては、サケの自然産卵の場を提供していただければありがたい。
- ・ 沙流川は昔から荒れる河川である。一方では礫を置いていったりするので、多様な河相を示している。洪水によって川がある意味で更新するような条件があった方が豊かな多様性が生まれる。安全性を保ちながら、生物の多様性を考えることがベスト。
森林や植生についても攪乱により多様化する。川から巨石を採って人が売る事例もあり、人間が川を荒らしているという面もあるのではないかと。
- ・ 生物学的あるいは生態学的な意味において安全かつ多様性のある河川を目指すということがベースにあっても良いのではないかと思います。
- ・ 特に下流部については昔の沙流川の姿を河道を掘削する時に目標にすれば、多分できると思う。基本の骨格だけ作っておいて、あとは洪水を待つて戻していくやり方かと思う。
- ・ 淡水魚が棲む場所や種(たね)になるものを失わせないことが大事。大きな出水のときは小さな流れに逃げ込んだりするので、支川も含めて考えていかないとまずいかなと思う。

(関係機関との連携)

- ・ 流域全体を対象とし、河川管理者は自治体、森林管理者、農林漁業団体、地域住民等と連携して整備を進めていく必要がある。

(流域委員会)

- ・ この流域委員会というのは、平成15年8月規模の洪水を再び起こさないようにということで始まったものなので、目標はそこに集中されるが、現在は単に整備だけでなく、河川の環境等に配慮していかなければならない時代である。治水対策については、前回委員会から議論を積み重ねられた結果から、台風10号出水に対応するための変更点については、ご了解頂けたと認識し、今回は治水、自然環境、文化など多様な面からの議論を頂いた。
- ・ 沙流川水系河川整備計画変更についての原案は、委員の皆様にご了承されたと考える。委員会での意見は整備計画の策定にあたって反映して頂くとともに、今後の河川整備を実施される際にも、活用されるものと考えている。

2) 委員と事務局の質疑(委員、事務局)

道管理区間の額平川の治水の関心も高く、道と連携していることを十分に普段から説明する必要がある。

- ・ 二風谷ダム上流から平取ダムまでは指定区間である。
土現から聞いたところでは、額平川は既に改修を実施した河川であり、新たに、治水安全度を変更する計画は無いとのことである。
しかしながら、平取ダム完成により貫気別川合流点下流では、例えば平成15年台風10号洪水では、洪水ピーク流量の3分の1を減らすことができ、安全度の向上に大きく寄与することができる。
住民、土現、北電、市町村などの関係機関と連携し「豊かで安全な沙流川流域未来をつくる会」が発足しており、この会などを利用し、道と開発局、その他の機関との連携をさらに深めたい。

シシャモへの配慮を考えると、河道を広げることによって、洪水による蛇行を許しながら、河床を自然に近い形で保全して欲しい。このためには、河岸決壊が生じても護岸を直ぐに設けるのではなく、堤防に接近した箇所に護岸を設けるなど、自然な川になるように工夫する必要がある。

- ・ 河道掘削にあたっては、かつての沙流川の姿が手本になると考えている。
かつての沙流川下流部は、複列砂洲となっており、川の蛇行を許容することになると考えている。

平取ダムの魚道について明確な説明がないが、どのように考えているのか。

- ・ 平取ダムの建設にあたって、自然環境への影響を評価・軽減するため「平取ダム環境調査検討委員会」が設置されており、魚類についても検討され

ているところ。費用面からの実現可能性もあり、現時点で魚道設置の有無はお答えるできる段階ではないが、原案にも魚類の遡上降下への配慮について記載しており、引き続き検討していく。

冬期、川が凍ると、浅瀬のシシャモの卵が凍結する恐れがあるので、渇水時には二風谷ダム同様、平取ダムからも放流してほしい。

- ・ シシャモの卵を保全するために、冬期渇水時の水深が必要。このため必要となる正常流量を定めており、二風谷ダム、平取ダム、両ダム合わせて $11\text{m}^3/\text{s}$ の補給を計画している。

二風谷ダムは洪水期にダムを空にすると、景観に問題が生じるのではないかと。

- ・ 二風谷ダムは、洪水期には洪水調節のため貯水位を下げ洪水調節専用とする。平常時には発電に利用していることや、景観面を考慮し一定の貯水位を確保する。

ウタリ協会平取支部の者で、先日の説明及び意見聴取会に出られず、河川管理者に説明や話しをする機会を設けて欲しいとの要望があった。

- ・ 整備計画変更の概要については、再度関係住民を対象とした説明会を開催する。また、河川管理者から治水事業についての説明は、地域の方々に継続的に行う必要があると認識している。

3) 説明・意見聴取会について

- ・ 地域の方から河川管理者に対して、再度詳しく丁寧に説明して欲しいとの要望があった。
- ・ 意見聴取会での地域の意見を見ると、計画流量 $6100\text{m}^3/\text{s}$ では目標として小さいのではと心配している方々がいる。
- ・ 街づくり地域づくりについて、説明会意見を見ると掘削について平取と門別で温度差があった。河道掘削に関しては、これからも河川管理者は地域住民へもっと説明して、同じ方向を向くようにしてほしい。